

浅间山の生立ち

浅间山は10万年前から何度も噴火をくりかえしてきた活火山です。



1 約10万年～20万年前 浅间山の前身である高野火山が成長を続けていました。この火山は富士山に似た形で、標高は2,800メートル以上あったと推定されています。

2 約20万年前 水蒸気爆発によって山体が崩壊し、土石なだれが山麓に堆積しました。この時発生した泥流は、中之条や前橋付近でも厚く堆積しました。

3 約2万年～17万7千年前 山体崩壊により高野火山のカルデラが形成され、その中に高野火山が形成されました。小窪山がつくられたのもこの時代です。

4 約17万7千年～1万1千年前 火砕流が何度も起き、とくに1万4千年前と1万1千年前の噴火では大規模な火砕流が発生し、南北両方向に30メートル以上の厚さで堆積しました。

5 約1万年～9000年前 仏岩火山の上から溶岩流や火砕流、火山灰が繰り返し噴出して、新しい山体である新山が形成されました。

6 西暦1100(天仁元)年 大規模な噴火が起こり、噴石、火山灰、追分火砕流、舞台溶岩流などが噴出しました。

7 西暦1783(天明3)年 大規模な噴火で噴石、火山灰、追分火砕流、舞台溶岩流、土石なだれ、天明泥流、香掛泥流、鬼押し溶岩流などが発生し、大災害になりました。

歴史時代の主な噴火災害

昔の記録に残っている浅间山の噴火災害のうちとくに被害が大きかったものを紹介します

天明の噴火

天明の噴火は、1783(天明3)年5月9日[※]に始まってから、噴火したり収まったりを繰り返しながら、次第に活動が大きくなっていきました。7月27日[※]頃から噴火が連続するようになり、8月4日から5日[※]にかけて、最も激しい噴火が起こりました。

発生した現象	・火山灰 ・噴石 ・追分火砕流 ・土石なだれ ・天明泥流 ・香掛泥流 ・鬼押し溶岩流
主な被災地域	・山麓の鎌原集落 ・吾妻川沿いの地域 ・軽井沢町(当時の軽井沢宿)
死者	・1400名以上
倒壊家屋	・1000棟以上



天明の噴火時に吾妻川沿いに流れた火山泥流(浅间山権吾妻川附村々絵図(藤原道氏模写))



天明泥流の流下範囲
1783(天明3)年の噴火で発生した泥流の流下範囲を示しています。
天明泥流が発生の原因になった「土石なだれ」の流下範囲を示しています。



天仁の噴火

1108(天仁元)年にも、浅间山は大噴火を起こしました。古い時代のことなので天明の噴火ほどの記録は残っていませんが、中御門右大臣藤原宗忠の書いた「中右記」に噴火のときの様子が記されています。

発生した現象	・火山灰(前橋で20センチメートル以上の厚さに積もりました) ・噴石 ・追分火砕流(約80平方キロメートル以上を覆いました) ・舞台溶岩流 [火山噴出物の量は天明の噴火の2倍以上]
---------------	--



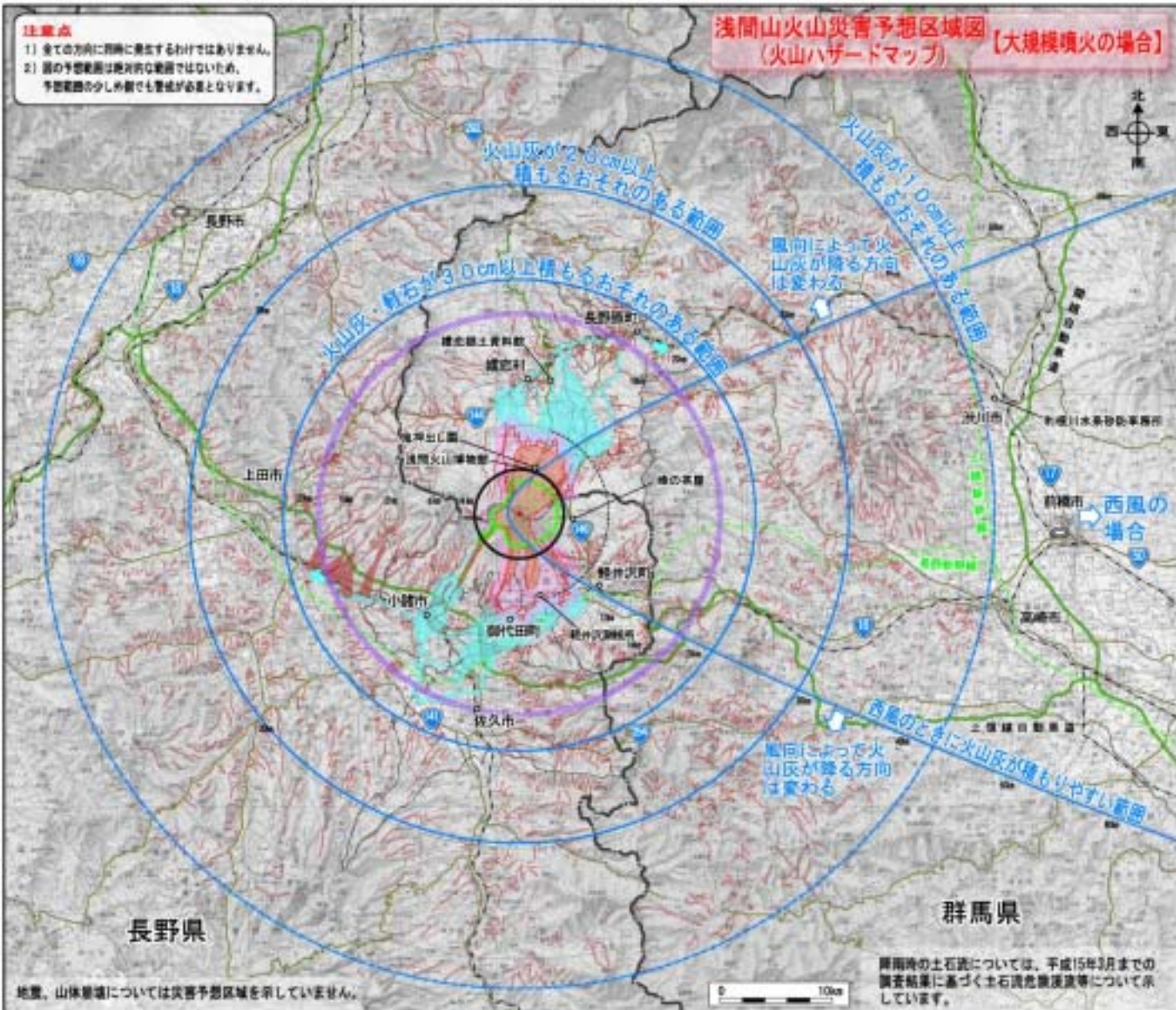
天明の噴火時に高温の軽石や火山灰から逃げまどう人々(浅间山権吾妻川附村々絵図(藤原道氏模写))

「国内に麻間峯という高山がある。治暦年間に煙を噴いたが、その後しばらく収まっていた。天仁元年七月二十一日に猛然と噴火を始め、煙は天まで登り、砂塵は国内に降りそそぎ、国内の田畑は全滅してしまった。一国の被害でこれほどひどい例は未だかつてない。稀な不思議の事件なので記し置くものである。」
『中右記』の現代語訳

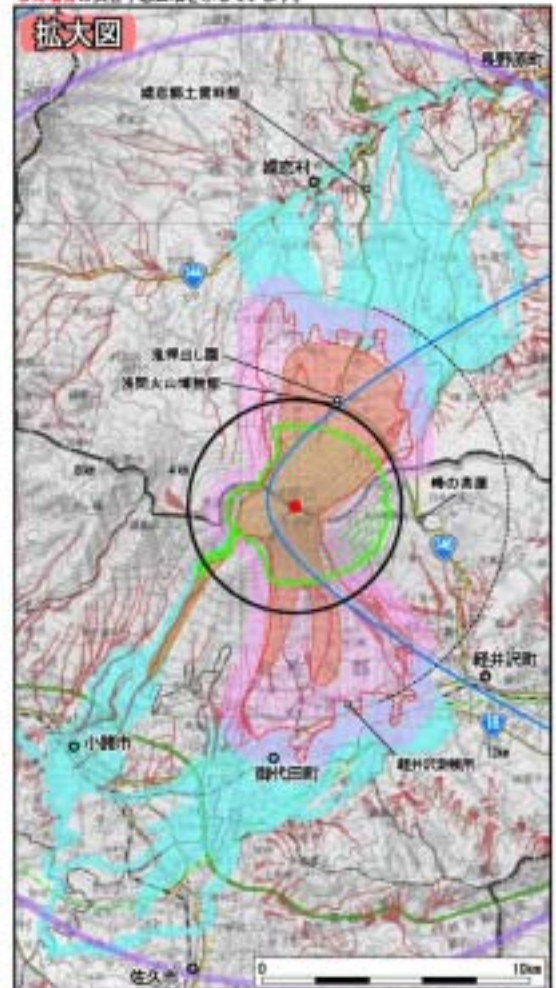


もしも天明の噴火のような大噴火がおきたら...

浅间山は過去2千年間に3回の大噴火を起こしました。たくさんの方を助けた「天明の噴火」もそのうちの一つにあたります。



この図に示す2枚の予想図は、天明の噴火と同じような大規模な噴火が、浅间山の山頂火口から北側(新高野側)あるいは南側(長野側)に向かって発生した場合の災害予想区域を示しています。



浅间山では、天明の噴火よりも大きな規模の噴火がおこることもあります。例えば、天仁の噴火は天明の噴火の2倍以上の規模でした。もしも、天仁の噴火のような大規模な噴火が起きた場合には、左の図に示したよりもさらに広い範囲に火砕流や融雪型火山泥流の被害がおよぶと予想されます。

記号の色と意味	想定火口	火山ガス	噴石	空振	火山灰(降灰)	降雨時の土石流	火砕流と熱風	融雪型火山泥流	溶岩流
	浅间山の山頂火口を想定しています。	高温のガスが溜まりやすい予想範囲です。	実線: こぶしより大きい噴石が飛んでくる予想範囲です(半径4km)。破線: 風下側で小石が飛んでくる予想範囲です(半径8km)。	空振による被害を受ける予想範囲です(半径18km)。	火山灰が積もる予想範囲です。大規模噴火の時には軽石も混ざって降ります。	降雨時の土石流の流下予想範囲です。	火砕流と熱風の流下予想範囲です。	積雪期の融雪型火山泥流の流下予想範囲です。	溶岩流の流下予想範囲です。

避難施設

避難の際には、町役場からの指示に従って行動してください。避難が必要になった時には、防災行政無線などで町役場から噴火の被害を受けにくい避難施設が指定されます。

下に示した噴火の影響範囲は、天明の噴火と同規模の噴火が発生したときの予想範囲です。なお、これよりも大規模な噴火が起きた場合には、さらに広い範囲に影響が及ぶと予想されます。

避難に関する問い合わせ先

長野原町役場 電話0279-82-2244

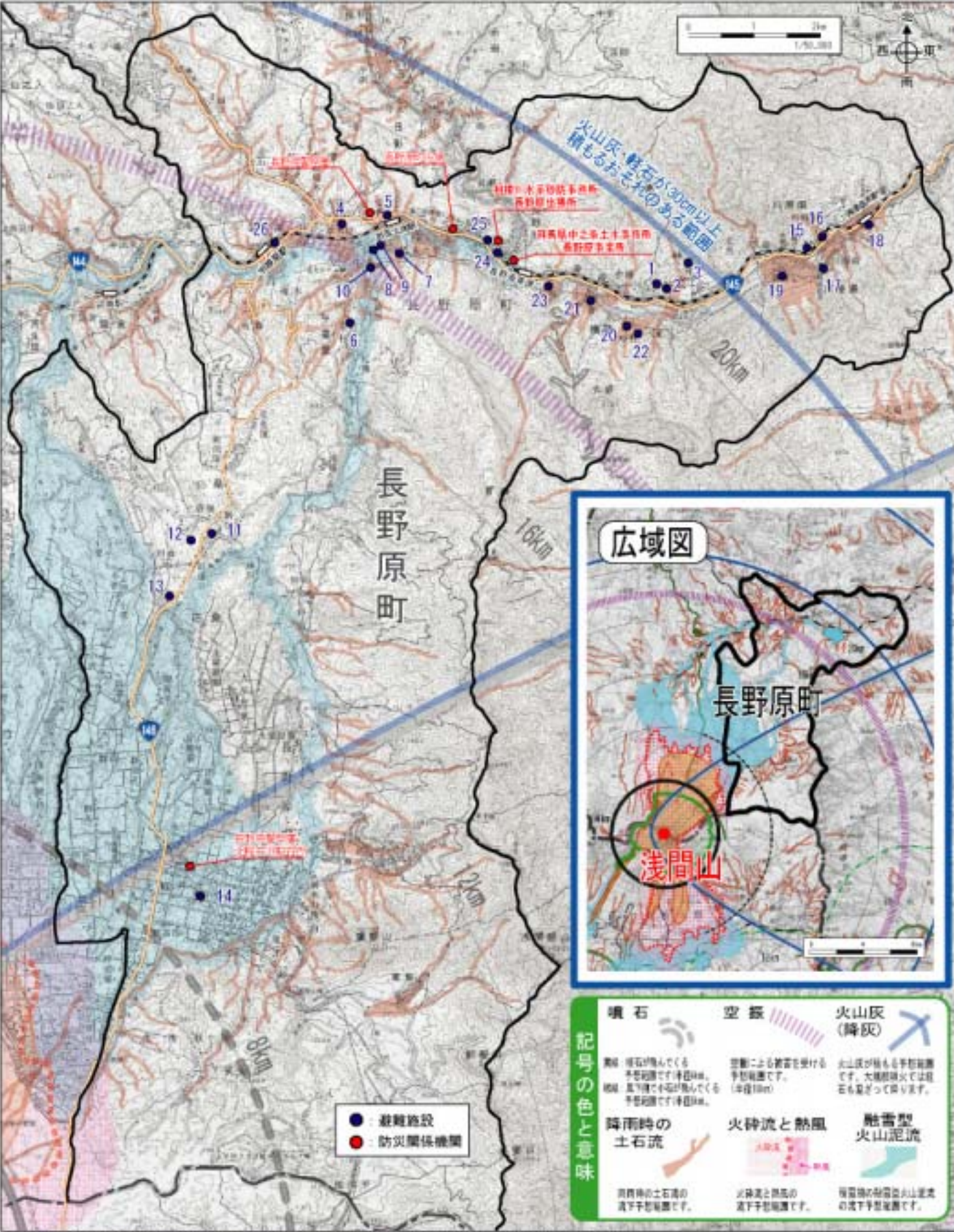
地区別の避難施設一覧

地区	番号	施設名	所在地	電話 (0279)
林	1	林地区多目的集会施設	林500	82-3880
	2	ダム相談センター		82-2919
	3	町立第1小学校	林 甲1394	82-2145
大津	4	大津地区多目的集会施設	大津244-2	82-2426
	5	町立中央小学校	大津4	82-2026
与喜屋	6	与喜屋公民館	与喜屋0	82-2038
	7	山村開発センター	与喜屋174	82-4517
	8	若人の館	〃	82-2248
	9	屋内運動場	〃	82-4280
	10	多目的集会施設	与喜屋305-4	82-3328
尾森	11	町立尾森小学校	尾森20-2	85-2002
	12	尾森地区多目的集会施設	尾森271-2	85-2801
北郷井沢	13	町立西中学校	尾森1542-310	85-3249
川原	14	町立北郷井沢小学校	北郷井沢942-44	84-3010
	15	住民センター	川原18	80-2801
川原	16	ダム相談センター	〃	-
	17	住民センター(王滝)	川原溝	80-2591
	18	ダム総合相談センター	〃	-
横壁	19	上津原住民センター	〃	-
	20	住民センター	横壁	-
長野原	21	小倉住民センター	〃	-
	22	ダム相談センター	〃	-
長野原	23	町立東中学校	長野原1174	82-2064
	24	ダム相談センター	〃	-
五明尾	25	長野原地区住民センター	長野原309-2	82-2366
	26	五明尾生活改善センター	五明尾41	82-3888

※観光客、滞在滞在者の方へ
避難が必要とするような大規模な噴火は、事前の兆候があるとされています。そのような情報はテレビやラジオから取得できます。町でも防災行政無線や広報車によってお知らせいたします。その場合は落ち着いて、町内の避難所ではない安全な自宅へお帰りのさい。

防災関係機関連絡先

施設名	電話
役場	長野原町役場 0279-82-2244
消防	吾妻広域消防西部消防署 長野原分署 0279-82-3119
	長野原消防団 0279-82-2244
警察	長野原警察署 0279-82-0110
	長野原警察署 北郷井沢駐在所 0279-84-2894
火山観測	気象庁 軽井沢観測所 0267-85-1364
	東京大学 浅間山観測所 0267-45-7550
ラジオ	東京電力(株) 長野原営業所 0279-82-2021
	NIT-NE材料(お客様センター) 112
その他	群馬県 中之条行政事務所 総務部経済課 0279-75-3301
	群馬県 中之条土木事務所 長野原事業所 0279-82-0340
	国土交通省 ハーレダム工事事務所 0279-82-2351
国土交通省 利根川水系利根川事務所 (1代所) 0279-22-4171	
国土交通省 利根川水系利根川事務所(長野原出張所) 0279-82-2138	
財団法人 利根川治水センター 02-6276-0272	



普段から災害に備えて

浅間山ではどのような噴火災害が考えられるのかこの「浅間山火山防災マップ」で知っておきましょう。

普段から非常持ち出し品を備えておきましょう。

家族みんなで避難場所を確認しておきましょう。

地震に備えて家具の固定や壁の補強をしておきましょう。

もし噴火がはじまったら?

気象庁が発表する「火山情報」に注意しましょう。

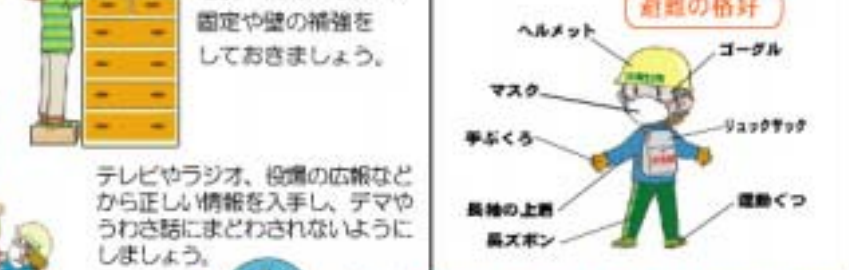
町長から避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。

探知火山情報があれば、その他のニュースや伝言の真実にも注意しましょう。

緊急火山情報があれば、いつでも避難できる準備をしましょう。

避難する場合は...

- あわてず落ち着いて行動する。
- 戸締り、電気、ガスの元栓を確認する。
- 貴重品を忘れずに持つ。
- 市街地では車を使わず歩いて避難する。
- お年寄り、赤ちゃん、身体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。



災害用伝言ダイヤル(171)

お電話の災害用伝言ダイヤルには、NTTの「災害用伝言ダイヤル」が使用できます。

「災害用伝言ダイヤル」(171)にかけ、自動アナウンスにしたがって簡単に「災害用伝言ダイヤル」にメッセージを送ることができます。

避難のときの持ち出し品

- 噴火が長引くと、避難先で何日も暮らすことも考えられます。大切なものはすぐに持ち出せるよう、心がけておきましょう。
- 特に火山噴火の時に必要となるもの**
- ヘルメット(防災ずきん) → 横石や落下物から頭を守る。
 - マスク → 細かい火山灰を吸い込むのを防ぐ。
 - ゴーグル → 細かい火山灰から目を守る。
- 主な持ち出し品リスト**
- 必要なものにしるしをつけて、避難から帰ってからおきましょう。
- 着替え、下着類
 - 洗面用具、衛生用品
 - 手ぶくろ・軍手
 - かさ、カッパ
 - リュックサック
 - 毛布・タオル
 - 非常食、嗜好品
 - 懐中電灯と電池
 - 携帯ラジオ、テレビ、電池
 - 常備薬、救急箱
 - 現金、小銭
 - シート、ビニール袋
 - ガムテープ(粘着テープ)
 - (腕)時計
 - 通帳、カード、印鑑、証券など
 - 健康保険証
 - 携帯電話(充電器など)
 - ライター
 - ちり紙、ティッシュペーパー
 - ほ乳ビン、ミルク、おむつ、母子手帳(赤ちゃんがいる場合)
 - お年寄り用常備薬など(お年寄りがいる場合)
 - その他個人的な貴重品
- (パソコンの重要なデータ、車の免許証など)